

夢湧き夢に夢中

第13号

令和7年11月7日 文責：大谷

「南阿蘇で有名なブルービーという蜂をイメージしたパンを作りたい」

「若年層に人気なフレンチトースト、メロンパン、クロワッサンをMIXしたパンを売りたい」

「旬の味わいをぎゅっと詰め込んだご褒美サンド！まるでアートみたいになんだ彩りフルーツ！果実の宝石箱！」

一年生の生徒たちが想像の中だけで思い描いていたパンが、村内でパン屋やカフェあるいはレストランを経営されている、いわゆるその道のプロの皆さんの技で商品として現実のものとなっていく。そして、プロの皆さんとともに商品化してきた自分たちのパンをお客さんが嬉しそうに手に取り、わたしたちにお金を支払ってくださる。こんな夢のような体験活動が、あつまり〜ん祭で実現しました。当初は、本学習に賛同いただく出資者やパン屋さんがなかなか見つからず先行きを不安視するときもありました。しかし、村商工会のご協力で出資者を募っていただいたり、南阿蘇村を拠点にライターをされている家入さんとフォトグラファターの五十嵐さんには広報ボスターの作成、さらに地域おこし協力隊の森田さんの全面協力による村内のパン屋さんやカフェ、レストランさんとのマッチング等、実に多くの皆さまのご協力のもとで当日を迎えられたことは言うまでもありません。そのおかげで会場は多くのお客さんで大盛況となりました。生徒らも最初は緊張して表情が硬かったのですが、お客さんの笑顔と「ありがとう」の

地域とともに夢を育む学校であるために①

ひと言が心底嬉しかったのでしようか、「いらっしやいませー！」や「ありがとうございました！」という威勢のいい声が飛び交い始めました。そして、販売開始から三十分ほどでほぼ完売。なかには「もう売り切れたの?」「間に合わなかった!」と嘆く方々も。有難いことです。生徒らも完売できたことへの安堵感とたくさんの人たちに喜んでもらえたことへの充実感でいっぱいでした。この日までに多大なご協力をいただいた皆さまに改めて深く感謝申し上げます。ほんとうにありがとうございました。さて、次は株主総会です。どんな報告をしてくれるか、今から楽しみです。

「生徒らがどうしても五十分の演劇をすべてやりたいと言うので、ステージ発表の時間を五十分だけにした」

九月、三年主任の島田先生から相談を受けました。最初は受験期にも入ろうかという時期でもあり無理しないかと消極的なことも考えましたが、三年生の熱意に翻意され実行委員会にお願いしたところ快諾。「あつまり〜ん祭で演劇なんて、初めてのことじゃないか。楽しみだね」保護者のみならず地域の多くの皆さんの熱視線もそこに注がれていました。そして開演。膨大な台詞量でありながらも切れ目なく物語は展開し、役に没頭して演じきる演者たちのその熱量は圧倒的で、いつの間にか劇中の世界に引き込まれていく。そんな感覚を多くの人が覚えたのではないだろうか。実に見応えのある素晴らしい演劇で、役者としての才能も大いに感じました。三年生の劇団の皆さん、ほんとうにありがとうございました。

締めは吹奏楽部の皆さんでした。一、二年生だけの演奏を初めて聴きましたが、堂々とした素晴らしい演奏でした。最後にアンコールもあり、会場中を大いに盛り上げてくれました。

初の試みへご協力いただき、有難うございました。今後も地域とともに夢を育む学校として頑張ります。よろしくお願いします。

